

2020年
10月

県内景況・確報

◎概況 県内景況は、新型コロナウイルス感染症の影響拡大により、厳しい状況にあるものの復調の動きがみられる。

●2020年10月 おきぎん「カトレア」景況図●

県内景況



やや悪い

個人消費



やや悪い

建設関連



ふつう

観光関連



悪い

企業倒産



やや良い

雇用状況



やや悪い

10月の県内景況は、個人消費関連では、スーパー売上高は、全店ベース、既存店ベースともに前年同月を上回りました。百貨店売上高は、前年同月を下回りました。耐久消費財である家電卸出荷額は、前年同月を下回りました。新車販売台数は前年同月を上回りました。

建設関連では、公共工事請負金額は3ヵ月連続で前年同月を上回りました。新設住宅着工戸数は前年同月を下回り、建設資材である生コン、セメントはともに前年同月を下回りました。

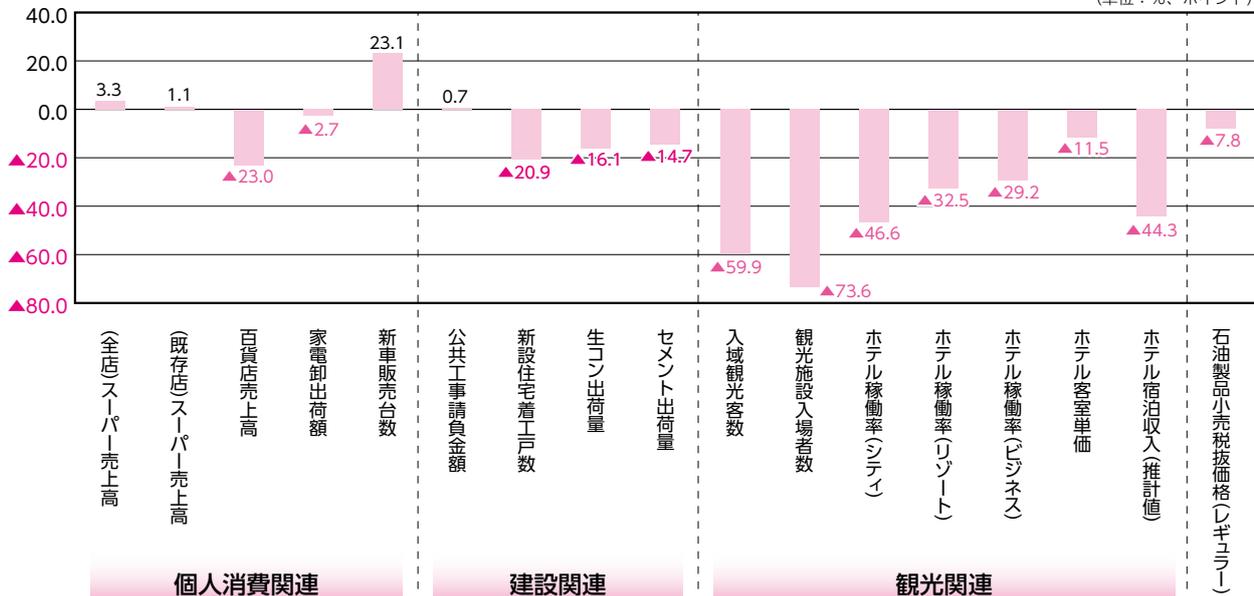
観光関連では、入域観光客数は10ヵ月連続で前年同月を下回り、観光施設入場者数も前年同月を下回りました。ホテル稼働率はシティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルのすべてで前年同月を下回りました。ホテル客室単価は前年同月を下回り、宿泊収入（推計値）も下回りました。

このような状況に鑑みて、建設関連は弱含みがみられる中、個人消費及び観光関連には持ち直しの動きがみられることなどから、「**県内景況は、新型コロナウイルス感染症の影響拡大により、厳しい状況にあるものの復調の動きがみられる。**」と景気判断を上方修正しました。

(2020年10月より上方修正)

主要景気指標前年同月比

(単位：％、ポイント)





個人消費



(やや悪い)

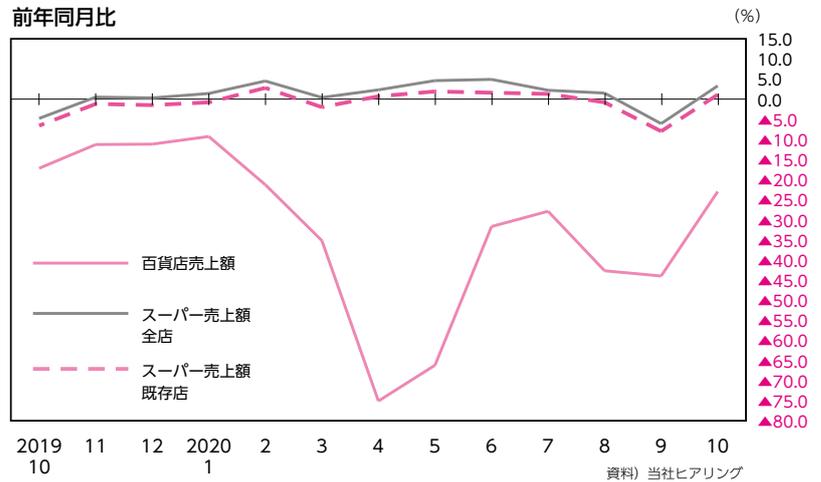
① スーパー・百貨店売上高…スーパー売上高は、全店ベース、既存店ベースともに前年同月を上回る。百貨店売上高は前年同月を下回る。

10月の個人消費関連では、スーパー売上高「全店ベース（前年同月比3.3%増）」は、新規出店効果などにより、「食料品（同4.3%増）」、「家庭用品（同2.4%増）」などが伸び、2ヵ月ぶりに前年同月を上回りました。

「既存店ベース（同1.1%増）」は、新型コロナウイルス感染症の影響拡大により、食料品が伸び、3ヵ月ぶりに前年同月を上回りました。品目別では、「衣料品（同5.8%減）」は、引き続き外出自粛および不要不急の買い物を控える動きが見られたことなどから、前年同月を下回りました。「家庭用品（同0.4%減）」は、マスク等の衛生用品は好調に推移したものの、家電などが伸びず、前年同月を下回りました。ウエイトの高い「食料品（同2.2%増）」は、引き続き巣ごもり需要により、一般的に伸びたことから、前年同月を上回りました。

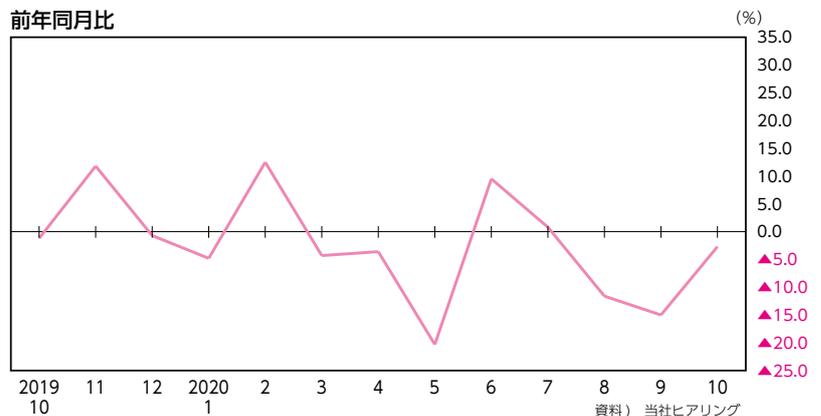
百貨店売上高は、新型コロナウイルス感染症の影響拡大による時短営業や、来店客数が減少していることなどから、17ヵ月連続で前年同月を下回りました（同23.0%減）。内訳をみると、ウエイトの高い「衣料品（同26.6%減）」は、新型コロナウイルス感染症の影響拡大により不要不急の買い物を控える動きが見られたことなどから、前年同月を下回りました。「食料品（同10.8%減）」は、来店客数の減少により前年同月を下回りました。化粧品等の「雑貨（同33.6%減）」は、インバウンド需要の大幅な減少により、前年同月を下回りました。

百貨店売上高は、新型コロナウイルス感染症の影響拡大による時短営業や、来店客数が減少していることなどから、17ヵ月連続で前年同月を下回りました（同23.0%減）。内訳をみると、ウエイトの高い「衣料品（同26.6%減）」は、新型コロナウイルス感染症の影響拡大により不要不急の買い物を控える動きが見られたことなどから、前年同月を下回りました。「食料品（同10.8%減）」は、来店客数の減少により前年同月を下回りました。化粧品等の「雑貨（同33.6%減）」は、インバウンド需要の大幅な減少により、前年同月を下回りました。



② 家電卸出荷額…家電卸出荷額は3ヵ月連続で前年同月を下回る。

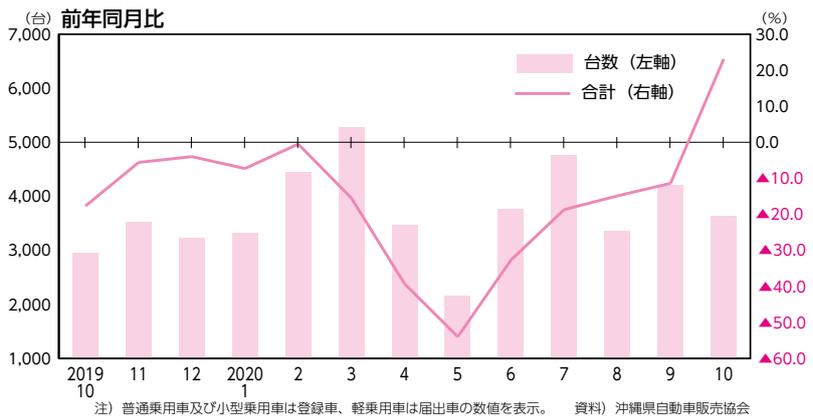
家電卸出荷額は、白物家電を中心に、一般的に売り上げが伸びず、3ヵ月連続で前年同月を下回りました（同2.7%減）。品目別では、「テレビ（同8.5%増）」は、新商品の売れ行きが好調で、前年同月を上回りました。一方、「冷蔵庫（同8.9%減）」、「エアコン（同5.2%減）」、「洗濯機（同0.6%減）」は、前年同月を下回りました。この他、ドライヤー、シェーバー等の美容家電も、インバウンド需要の減少などにより前年同月を下回りました。



③ 新車販売台数…新車販売台数は、13ヵ月ぶりに前年同月を上回る。

新車販売台数は、全体で3,624台（同23.1%増）となり、13ヵ月ぶりに前年同月を上回りました。車種別では、「普通乗用車（同36.5%増）」、「小型乗用車（同30.3%増）」、「軽乗用車（同18.7%増）」は、いずれもレンタカー需要は減少したものの、自家用車需要が増加し、前年同月を上回りました。

※普通乗用車及び小型乗用車は登録ベース、軽乗用車は届出ベースの数値を合算。

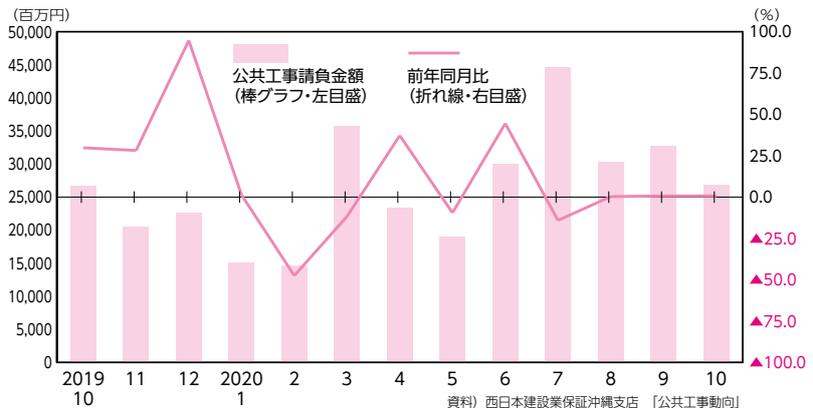


建設関連 (ぶつう)

① 公共工事…公共工事請負金額は前年同月を上回る。

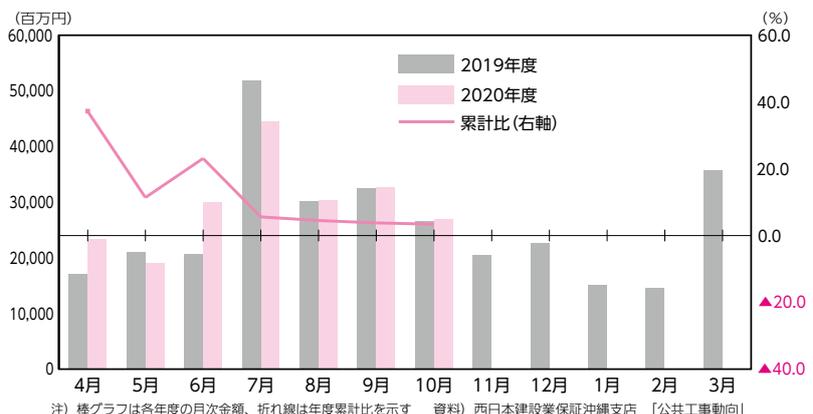
10月の公共工事請負金額は、前年同月比0.7%増の268億8,600万円となりました（3ヵ月連続増）。

発注者別でみると、「沖縄県（同17.1%増）」や「独立行政法人等（同429.9%増）」は前年同月を上回りました。一方、「市町村（同5.5%減）」や「その他の公共的団体（同35.7%減）」、「国（同3.7%減）」は前年同月を下回りました。



【参考】 公共工事(年度累計)…公共工事請負金額は前年同期を上回る。

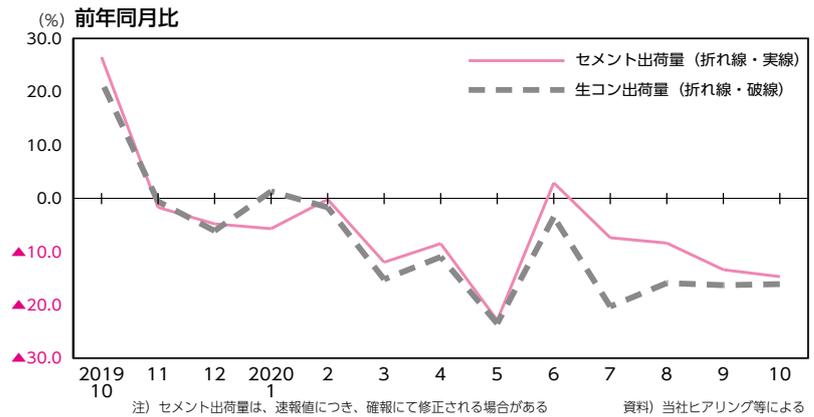
今年度累計値では、3.4%増となっています。





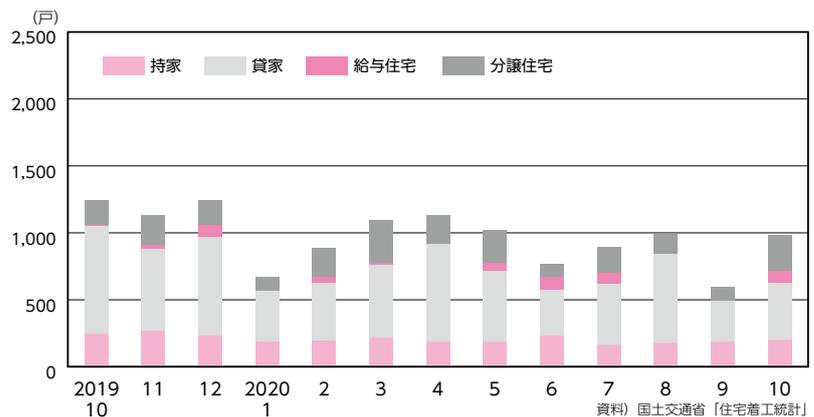
② 建設資材…生コン、セメントはともに前年同月を下回る。

建設資材関連では、生コンの出荷量は16.1%減と9ヵ月連続で前年同月を下回りました。内訳をみると、公共工事向けは、中南部地区における防衛関連等への出荷が増加したことなどから前年同月より4.2%上回ったものの、民間工事向けでは、中南部地区における住宅関連等への出荷が減少したことなどから前年同月より24.9%下回りました。セメント出荷量は14.7%減と4ヵ月連続で前年同月を下回りました。



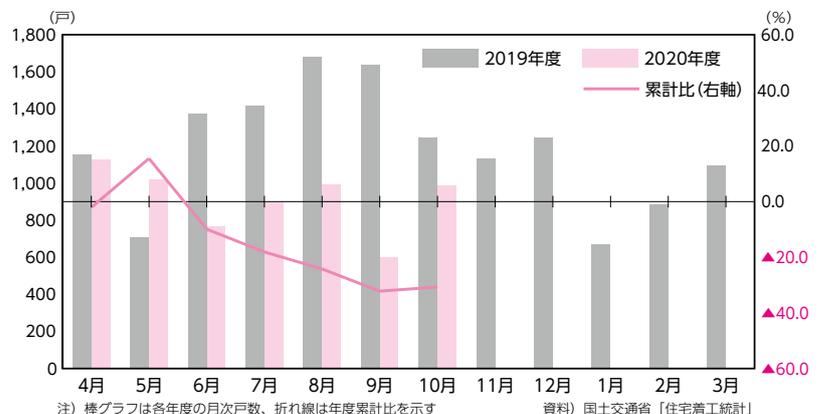
③ 住宅投資…着工戸数は前年同月を下回る。

10月の新設住宅着工戸数は、全体で前年同月比20.9%減の985戸となり、5ヵ月連続で前年同月を下回りました。利用別戸数をみると、ウェイトの高い「貸家 (同47.9%減)」のほか、「持家 (同18.1%減)」は前年同月を下回りました。一方、「分譲住宅 (同43.1%増)」、「給与住宅 (同1780.0%増 (約19倍))」は前年同月を上回りました。



【参考】住宅投資(年度累計)…着工戸数は前年同期を下回る。

今年度累計値では、30.7%減となっています。

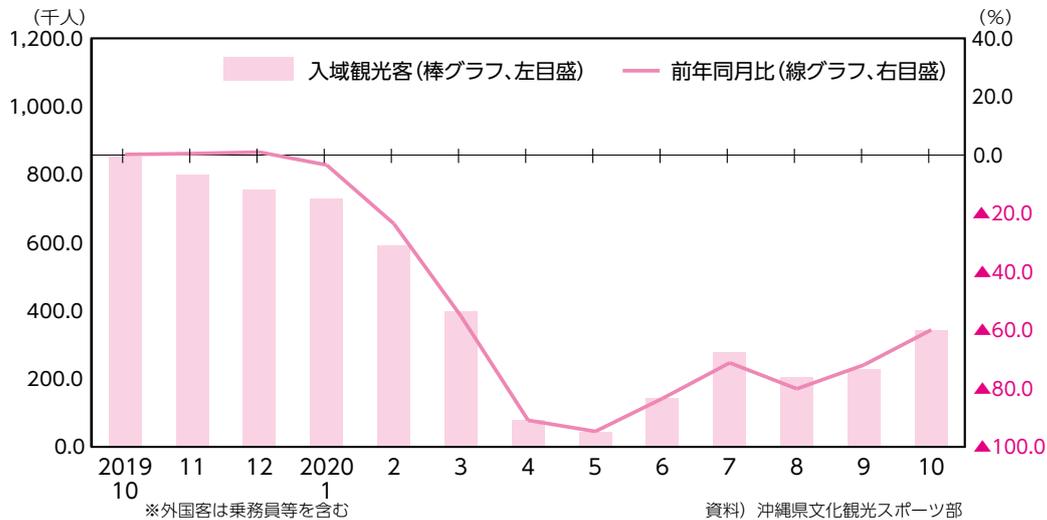


観光関連

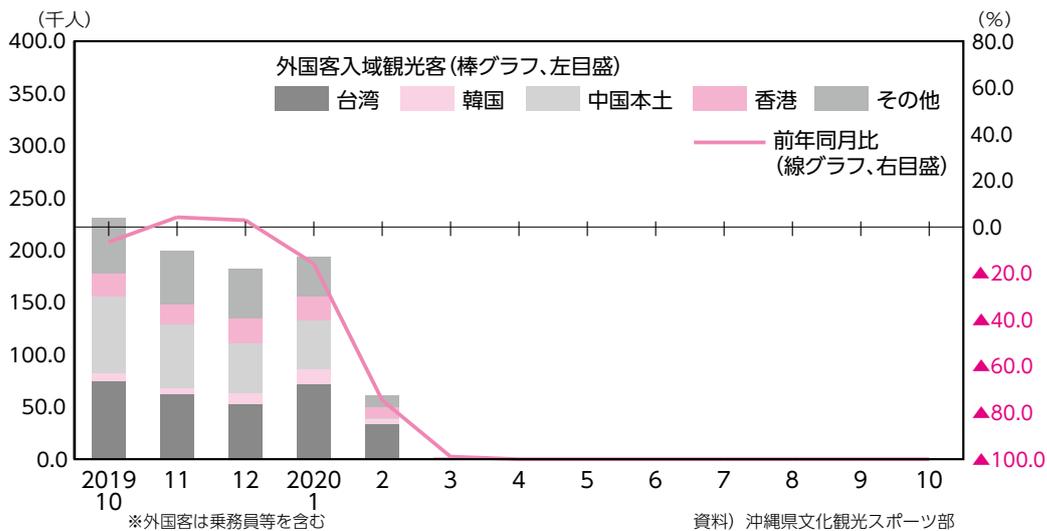


(悪い)

① 入域観光客数(国内客・外国客の合計)…10ヵ月連続で前年同月を下回る。



外国客 入域観光客数…10ヵ月連続で前年同月を下回る。



10月の入域観光客数は、510,100人少ない341,200人（前年同月比59.9%減）となり、10ヵ月連続で前年同月を下回りました。

内訳をみると、「国内客（同45.0%減）」は、279,600人と9ヵ月連続で前年同月を下回りました。

10月は、GoToトラベルの対象に東京都が追加されたことや航空路線の新規開設があったことなどから特に本土と先島諸島とを結ぶ路線で回復したものの、新型コロナウイルス感染症のため旅行を控える動きが影響したことなどから、前年同月を大きく下回りました。

他方、「外国客（同100.0%減）」は、0人となり10ヵ月連続で前年同月を下回りました。引き続き台湾、中国、香港、韓国を含む国や地域が日本への上陸拒否の対象とされたことなどから皆減となりました。

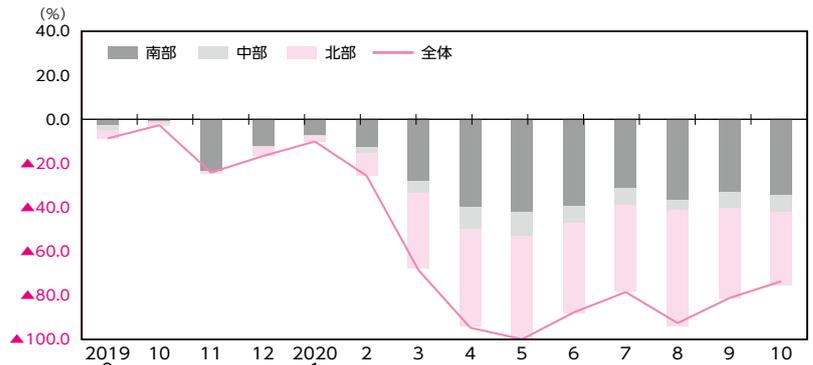
「台湾（同100.0%減）」「韓国（同100.0%減）」「中国本土（同100.0%減）」「香港（同100.0%減）」

※乗務員等を除く2020年10月実績＝全体230,500人（同71.8%減）、外国客0人（同100.0%減）、国内客は変わらない。



② 観光施設入場者数…15ヵ月連続で前年同月を下回る。

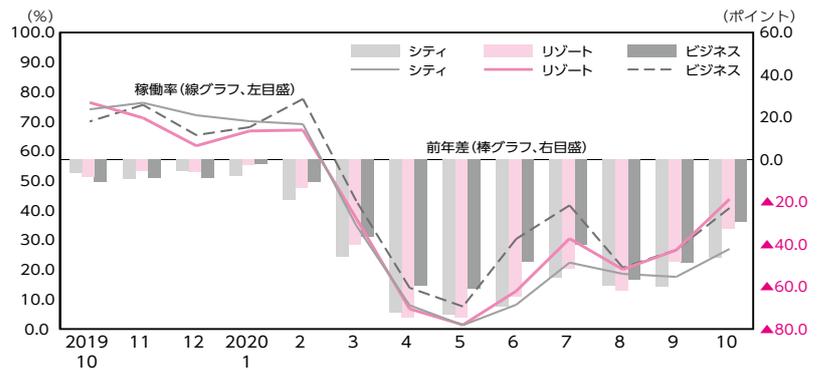
観光施設入場者数は、全体で前年同月より73.6%減少(15ヵ月連続)しました。地域別にみると、南部にある観光施設は同81.8%減と15ヵ月連続、中部は同76.9%減と11ヵ月連続、北部は同65.9%減と15ヵ月連続で前年同月を下回りました。



※調査対象施設数=南部6、中部5、北部4施設 ※2019年3月より、北部の対象施設数が変更(5⇒4)となったことから、2018年3月以降の数値を遡って改定した。 ※公表後に改定する場合があります。 ※新型コロナウイルス感染症の影響等をふまえて集計している。 注)棒グラフは各地域の寄与度を示している 資料) 当社ヒアリング

③ ホテル稼働率…シティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルのすべてで前年同月を下回る。

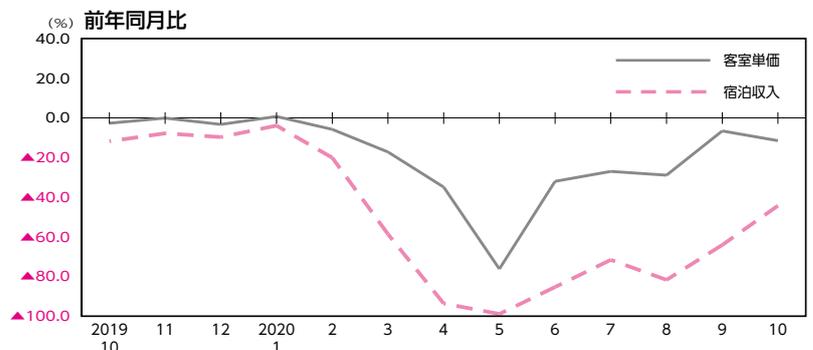
県内ホテル稼働率は、シティホテルが27.0%と46.6ポイント減少(16ヵ月連続)、リゾートホテル43.8%と32.5ポイント減少(17ヵ月連続)、ビジネスホテルが40.8%と29.2ポイント減少(15ヵ月連続)しました。



注)シティ8ホテル、リゾート18ホテル、ビジネス4ホテル
注)2019年11月より、ビジネスホテル対象施設数が変更(6⇒4)となったことから、2018年11月以降の数値を遡って改定した。
※公表後に改定する場合があります。 ※新型コロナウイルス感染症の影響等をふまえて集計している。 資料) 当社ヒアリング

④ ホテル客室単価・宿泊収入…客室単価は前年同月を下回り、宿泊収入も下回る。

ホテル客室単価(シティ&リゾート)は前年同月比11.5%減と前年同月を下回りました。**宿泊収入**も同44.3%減と前年同月を下回りました。



※対象施設数:26施設(シティ8、リゾート18)、ビジネスは除く ※客室単価は26施設の平均値、宿泊収入は各施設の推計値の総額(稼働率及び客室単価より当社推計) ※公表後に改定する場合があります。 ※新型コロナウイルス感染症の影響等をふまえて集計している。 資料) 当社ヒアリング



企業倒産

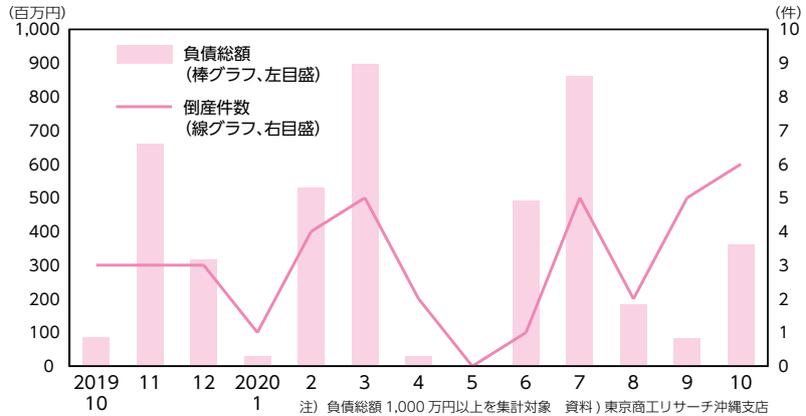


(やや良い)

企業倒産…件数、負債総額はともに前年同月を上回る。

10月の企業倒産件数は、6件（うち大口倒産は1件）となり、前年同月より100.0%上回りました。

負債総額は3億6,000万円となり、前年同月より318.6%上回りました。



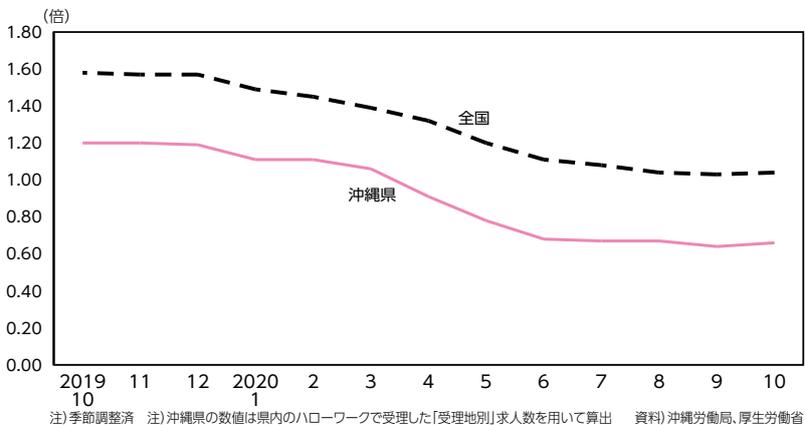
雇用関連



(やや悪い)

① 有効求人倍率…沖縄、全国はともに前月より上昇。

10月の雇用状況は、月間有効求人数（季節調整値）が前月比6.3%増の19,915人に対して、月間有効求職者数（同上）は前月比3.2%増の30,320人となり、有効求人倍率（季節調整値）は0.66倍と、前月より0.02ポイント上昇しました。



② 完全失業率…沖縄、全国はともに前月より上昇。

10月の完全失業率（季節調整値）は、3.8%となり前月より0.3ポイント上昇しました。

